

# 逗子市地域活動センター小坪大谷戸会館基本設計及び実施設計業務

## 公募型プロポーザルコンペ 審査講評

東海大学 教授 杉本洋文

逗子市の公募型プロポーザルコンペは今回で2度目となる。公共建築の設計発注方式が課題となる昨今、神奈川県内に事務所開設している建築家に限定されているが、それでも資格審査がない設計者選定方法は、公共建築の設計機会について門戸を広く開いている点では評価できる。

審査会議のアドバイザーに推薦いただき、木造建築の専門家として審査に参加できたことは大変光栄なことだと思う。そこで審査の経過・評価について概観する。

この規模の公共建築は、建築家にとって手頃なので、63点の作品が提出された。作品からは建築家の意気込みが感じられ、提案書から強く訴えかけてきた。私達、審査員一同、気を引き締めて審査を行った。

今回のプロポーザルコンペは、現在の小坪太谷戸会館の老朽化による建て替えである。そのため、既存施設を使い続けてきた市民がワークショップを事前に実施して、検討が重ねられ、その成果が設計条件に反映されている。従って、プロポーザルコンペとしては把握しやすい内容であるが、こうした市民の意見を踏まえながら、地域活動センターとしてあるべき姿を提案することは難しかったと思う。さらに公共建築の木造化は、昨年法律が通過してやっと設計基準がまとまった段階で、公共建築に対する木造建築の提案になるので、建築家の木造の設計力が試される場となった。

審査は、まず、各審査員の所属部署の視点からそれぞれの案を審査し、私が専門的・技術的な立場からアドバイスを行った。さらに設計に入ると、市民との協働が前提となっているので、市民を魅了する創造力を発揮し、提案内容に説得力があり、そして実現に向けて建築家の取り組む姿勢や意気込みが備わっているかなどが審査の重要なポイントとなった。

第1次審査では、事前に作品内容を審査していたので、最初に全案の内容を一つずつ確認し、その上で各審査員が推薦し、得票数に関係なく選考された作品の全てを全員で議論しながら絞り込んで行った。中でも整理番号6、20、43、47の作品は、非常に意欲的な提案であったが、惜しくも最終選考に残ることができなかった。そして第2次審査へは、整理番号：15、16、26、38、44、68の6作品が全員一致で選考された。

第2次審査にあたって、公開プレゼンテーションが実施され、整理番号順に発表が行われた。それぞれ第1次審査で判断できない設計内容や取り組む姿勢など、様々な角度から質疑が行われた。どの案もよく練られており、それぞれの提案の特徴が鮮明になり、提案

者の意気込みも明らかとなった。

その後、非公開で最終の審査会議が行われ、6作品の発表内容を一つ一つ確認して、各委員の推薦によって最優秀者を絞っていった。

整理番号16は、台形のシンプルな平面形状に、切り妻の大屋根が掛けられ開放的な明るい空間を提案している。欄間のガラス面積が大きく、防災面やメンテナンスなどが指摘された。

整理番号26は、作品の中では最もバランスのとれた提案であり、最後まで残された。しかし、木造空間の表現不足と公共建築としての外観の提案が弱かった。

整理番号38は、フラットルーフとコアが点在している平面計画が特徴で、開放的な建築空間となり、さらに区切ることによって個々の空間が確保できるのが魅力的である。しかし、建築内部の各コーナーの面積が小さく、収納も少なく、入口が一つで、バリアフリー面の問題が指摘された。また外観は東西側が閉鎖的で、景観計画の整合性が課題となった。

整理番号68は、単純な南傾斜のボックス空間で、軽快にゾーニングされている。木をモチーフにした柱がランダムに配置され、木造ならではの空間スケールと個性をつくりだしているが、それが逆に空間の自由度を妨げている点が課題となった。

最終的には、以上の4作品が対象外になり、整理番号15と44の2案が残された。この2案について、提案内容を比較し、議論を重ねた結果、整理番号15が、最優秀者となり、整理番号44が次点になる順番を全員一致で決定しました。

## **最優秀者      15                      株式会社 コンテンポラリーズ      代表取締役      柳澤潤**

この提案の特徴は、提示されたプログラムを幾つもの広場として設定し、作者が「大谷戸ドック」と名づけたワンルームの空間を、間仕切りの開閉だけで可変性と連続性を確保し、様々なプログラムに対応できる自由度を備え、公共空間を様々なコミュニケーションを発生させる広場を内外に一体的に解決されているのが優れていた。緑の縁側は周辺の立地特性に対応してアプローチやギャラリー、通り庭になる快適な半外部空間が提案されている。

空間構造は、地形の流れを屋根の形状に表現して単純な手法で天井高が変化する空間をつくりだしている。それを実現させるために、門型の木造フレームを連続させる単純な構造で公共建築として、2×4材の組み合わせは巾方向の変形に不安が残るが、コストパフォーマンスのよい軽快な構造計画となっている。

ストライプ状に挿入された屋外に開放された広場によって、屋内に光と風をとりこむ仕組みが組み込まれ、西側の回廊空間が屋外の展示空間とするなど隣接する施設への配慮や南側への動線が確保されている点も敷地の使い方が上手で、どの場所でも明るく快適な環境が提案されて、すがすがしい開放的な公共空間を提案している。

そして何よりも、このプロジェクトに対する建築家の意気込みやチームワークの良い専門家集団の編成が期待できるプレゼンテーションで、好感のもてるチームであった。

#### 次点 44 プラス プロスペクトコテージー級建築士事務所 代表 小形 徹

この提案の内容は、東側から西に向かって傾斜屋根で覆われたシンプルな空間とデザインが明快な提案である。3方向に開放され、特に建築断面が道路側のファサードに表現されている。東側のコア部分の上部に設けられた「光のパティオ」は屋内各所に光を取り入れている。庇空間の流れが心地よい縁空間を創出していた。プログラムも忠実に構成されていた素直な案である。

しかし、道路側の開口部にF I Xが多用されているので、風の流れを感じられず透明性が確保されているが閉鎖的で、南北の軒先空間も少なく屋内外の連続性が確保されていなかった。さらに事務室の閉鎖性も問題となった。傾斜屋根を支える連続した登り梁の木構造は軽快で、リズムカルな空間構造の提案であったが、木材の選定に少し無理が感じられた。設計者の公共建築への取り組み、市民との協働の取り組みなどの経験が豊富なのは評価できた。

最優秀者は、立地特性に配慮し、プログラムを深く読み取り、フレキシビリティに優れた、意欲的な提案が行われていた。建築の内容はまだ充分ではないが、今後、市民と一緒に作り上げて行く中で、より完成度の高い建築に昇華させて行ける能力を有していると判断して最終決定した。今後の設計者の努力に大いに期待したい。

公募型プロポーザルコンペは2回目となるが、この方法を定着して行くためには、より市民が参加しやすい環境づくりが求められる。公開プレゼンテーションが行われていたことは評価できるが、提案された内容を全て展覧会の形で市民に公開し、審査そのものにも参加してもらう工夫ができると、審査会がもっと充実すると思うし、市民に公開審査が一つの公共建築の設計者選定の仕組みとして浸透していくと考える。次回に期待したい。また、そうした建築文化を創造して行く市民の活動に大いに期待して行きたい。

最後に、このコンペに応募して下さった建築家の方々に感謝するとともに、提案された内容はどれも素晴らしく、今後につながると思う。逗子市ならびに日本の建築文化の発展に、さらにご活躍いただけるようお願いする。